

## 学会報告

コミュニケーション科学領域 青木 健太

6月に愛媛県で開催された「第24回日本言語聴覚学会」と9月に神奈川県で開催された「第29回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会」、10月に宮城県で開催された「第47回日本高次脳機能障害学会学術総会」の3つの学会で研究発表を行いました。

6月の言語聴覚学会では、超高齢者失語症例に対する言語訓練について発表を行いました。臨床を行う中で高齢者の失語症訓練は大変難しく、難渋しております。今回発表した症例も訓練開始当初はリハビリの拒否傾向が強かったですが、認知課題から開始し、徐々に言語訓練を取り入れ最終積極的な訓練を行うことができ、99歳という年齢ながら言語機能の改善を認めた症例でした。

9月の摂食嚥下リハビリテーション学会では、自身の修士研究である、ジェントルスティムを使用した嚥下機能に関する各反射の改善効果についての発表と当院にて行っている梅干しを使用した食事摂取量に関する研究の2演題を発表させていただきました。今まで行ってきた研究発表は、シングルケースでの発表が中心であった為、今回の発

表では、スライド作成にも大変時間を要しましたが、両発表とも、フロアからたくさんのご質問やご意見をいただき、有意義な時間となりました。

10月に行われた高次脳機能障害学会では、優れた計算能力が保持された失語症例についての発表を行いました。症例は高校時代珠算全国1位の経歴を持ち、失語症発症後も計算課題では、聴覚・視覚提示とも7桁の加算が可能でした。一方で、数唱では4桁～5桁程度しか行えず、同じ数字を使用しても数唱と暗算で使用するルートが異なっているのが特徴的でした。珠算の熟練者であったことから、珠のイメージとしての専用の表象系が出来上がっており、右半球にて暗算を行っていることが示唆された症例でした。

今回、4演題の発表に関して、共同演者としてご指導やスライド添削に携わってくださった本学ST専攻の先生方、本当にありがとうございました。引き続き、臨床研究を行い、学術発表に加え論文執筆も行っていけるよう、日々努力していきたいと思っております。

